

# Kurilon Workshop News

クリロンワークショップ便り  
No.34 2019年11月

No.  
34



蔡國華：ウィンザーの午後（油彩）

デザイン：加藤麻依子（画空間）



## 下村式漢字の絵本 第2巻



11月1日に下村式漢字の絵本の第2巻が出版されました。今回は「頭と顔に関する漢字編」です。

B5版 40頁  
価格 1,500円＋税  
Amazonにて販売中

秋冬

## My 空間イベント@大崎

- 11月17日（日）14:00～16:00 ワークショップ「生木でつくるフレッシュクリスマスリース」 TeamK
- 11月20日（水）15:30～16:30 おりがみの会「オリジナルオーナメント作り」
- 11月23日（土・祝）14:00～16:00 わくわくアトリエ・造形「いろんな素材でオーナメント作り」
- 12月4日（水）15:30～16:30 ワークショップ「親子でおそろいアクセサリー作り」

ユーザーの声をフィルムに表現する

クリロン化成株式会社  
<https://www.kurilon.co.jp>

心が豊かであるために・・・  
KURILON Workshop  
<http://www.kurilon.co.jp/company/workshop/>

画空間  
<http://www.a-kukan.com/>

Studio My空間  
<http://www.a-kukan.com/mykukan/>

## 2 製品知識と市場認識

7月12日 名古屋開催



前半は、技術開発課のベテラン社員より「プラスチック製品について」の講義を行い、自社製品や他社製品の特徴を、実際に見て、触って体感し、理解を深めました。

後半は、住本技術士事務所長の住本充弘先生より、「国内の先進パッケージとクリロン化成」について、日本国内を中心とした包装・パッケージ分野の潮流や進化の方向と、クリロン化成が参入する・している分野の概況についてご講義頂きました。

■参加者からの感想

普段触ることのない単層フィルムに触れ、多層フィルムと比較しながら、樹脂によっての臭いの違いなど、五感で感じながら学ぶことが出来た。営業所内でも共有し、お客様先での勉強会でも参考にさせてもらおうと思う。(事務職)

## 1 クリロン化成の今後の事業展開

6月14日 大阪開催

■参加者からの感想

製造現場目線で、今出来る事と、先に向けて準備出来る事を考え、今後の生産性の向上に繋げたい。(製造職)

取締役の栗原和志より、今後のクリロン化成の新事業について、複合フィルムのプロンティアを切り拓くという視点から講義が行われました。

また技術開発課課長の小柳より、今後の製造部門に求められる課題について、当社の機械の映像等を使用して講義が行われました。

## 2019年度 清風会 開催

当社は、入社4年以上の中堅社員を対象とした部署や部門を横断する研修として「清風会」があります。社員同士の親睦を深めるだけでなく、職務能力の向上や専門知識の習得を目指し、人材部と実行委員を中心に研修を企画します。

今年はカフェテリア形式で、全4テーマの中から各自が希望する会を選択し開催しました。各テーマの概要と、参加者からの感想をご紹介します。

人材部

## 4 環境問題とプラスチック

9月6日 大阪開催

■参加者からの感想

環境問題とプラスチックについて、フィルムメーカーの社員として、きちんと社外の方に見解を説明できるよう知識を付ける必要性を感じた。(技術職)

神戸大学名誉教授の石川雅紀先生を迎え、「環境問題とプラスチック」をテーマに開催されました。石川先生は、この分野の最先端で研究を続けられています。

講義後、事前課題であった市場ウォッチングをもとにグループディスカッションを実施しました。非食品の詰め替えパックや分別廃棄がしやすい商品など、廃棄や環境に配慮した商品を集め、パッケージやデザインの持つ力、プラスチックフィルムの可能性について話し合いました。

■参加者からの感想

IoTやAIの導入により、情報処理は機械がやってくれるようになってくると、その情報をどう生かすかを判断するのは人間である。考える力や判断力を養うことが重要だと感じました。(事務職)

フェムトラボの生産管理システムコンサルタントの梅谷康子先生より、「AIと生産性」についてご講義頂きました。

今後のIoTの発展に伴い、自分達の仕事が変わっていくのか、自身の日々の仕事にどう生かしていくのか、メンバーと自分自身の成長について、中堅社員の役割を考えるグループディスカッションを行いました。



■参加者からの感想

IoTやAIの導入により、情報処理は機械がやってくれるようになってくると、その情報をどう生かすかを判断するのは人間である。考える力や判断力を養うことが重要だと感じました。(事務職)

## 蔡國華 コッツウォルズスケッチ作品展



▲蔡國華風景作品「コッツウォルズ紀行」  
価格 2,000円＋税  
amazonにて好評発売中

画空間ギャラリーにて、9月9日より14日まで「コッツウォルズスケッチ作品展」が開催されました。

今年6月にスケッチツアーで訪れたコッツウォルズ地方とイギリス王室ゆかりの街の風景を描いた作品が展示されました。水彩風景作品集シリーズ5作目となる「コッツウォルズ紀行」の展覧会です。関東を直撃した台風の翌日にもかかわらず、初日より多くの来場者で賑わい大盛況となりました。

「コッツウォルズのベニス」と呼ばれるイギリスの静かで美しい村では200年も前に架けられたという橋が水辺の緑豊かな芝生やはちみつ色のストーンの家並みとともに息づくように描かれ、また川沿いのカフェや活気に満ちたバブ、羊の群が草を食むのどかな様子も、訪れた人々に癒しの時を与えてくれました。

画空間 小路純子

## 吉川眞理作品展 生命の鼓動

8月19日より、吉川眞理作品展「生命の鼓動」が開催されました。

吉川眞理さんはタペストリー作家で、日展工芸美術部門において入選を重ね、今年日展会友となられています。その記念すべき初個展が画空間で行われました。

チェロをモチーフにし羊毛や絹などを使った綴れ織りの技法で織られるこれらの作品は、一点を織り上げるのに約3カ月を要すること。そんな大作が展示されました。

オープニングパーティーではご子息のチェロ奏者袴田容さ



▲オープニングパーティの様子

んとそのお仲間によるトリオがタペストリー作品の前で演奏し、親子での美術と音楽の競演となりました。

画空間 近ゆうみ

## 渡邊香月個展 KYOGAI

8月5日より、渡邊香月個展「KYOGAI」が開催されました。

世界から消えつつある生き物たち。刻々変化する自然環境。地球上には人間の都合で勝手に引かれた見えないボーダーラインにより変えられた現状に溢れています。

渡邊さんはニュース映像などから受ける現実社会での都市と自然・富と貧困・現実と仮想現実などに潜む違和感を、仏教用語である「境界」(KYOGAI)のひとつ「六境」(色境・声境・香境・味境・触境・法境)にたとえ確かな表現力とともに6点のタペストリーに託しました。作品に隠された様々



▲展覧会の様子

なメッセージのレイヤーが、見るものに様々な感情を想起させます。

作家の情熱が画面から溢れ会場を満たした現代アートの展覧会でした。

画空間 所由香

## 第53回 潮まつり 三連覇

2019年7月27日(土)

第53回おたる潮まつりの潮ねりこみに、今年も「満ち潮隊」として総勢70名で小樽の街を踊りました。

コンテストの審査講評では『夜の効果を考え抜いた演出に、声よし！笑顔よし！踊りよし！の三拍子揃った見ごたえのある踊りで、沿道の皆さまを心行くまで楽しませてくれました。』との評価を頂き、参加全88チーム中、見事優勝。

一昨年、昨年に続き、三連覇の栄誉に輝きました。

今回の結果に慢心することなく、来年も優勝を目指し、チーム一丸となって取り組んで参ります。

人材部 福田真美子



## おりがみの会

MY空間では、今年の6月よりミモザバレーサークルの子どもたちを中心に毎月1回「おりがみの会」を行っています。

これまで七夕にちなんだ星やお花、ドレスなど色々な作品に挑戦しました。

小さな女の子がお母さんの手を借りながら作りあげて喜ぶ表情や、小学生が最後まで真剣に集中して取り組む姿がとても素敵です。

毎回子どもたちの豊かな発想力にも驚かされています。そして何よりお母さん方が楽しんでくださっていることを嬉しく思います。

今後も、様々な分野の講師にご協力いただきながら「わくわくアトリエ」教室やアクセサリー作り、クリスマスリース作りなど、地域とのつながりを大切にしたイベントを開催していきます。

MY空間 加藤麻依子



▲おりがみの会の様子

